

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600048		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム野の花(1階)		
所在地	山口県山陽小野田市大字郡字浜3233番7		
自己評価作成日	平成24年2月27日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

野の花は朝の川霧、干潟の鳥、夕日が絶景のグループホームです。「皆に優しく、共に楽しく」の理念のもと、言葉づかいや態度について接遇研修を定期的実施して学び、優しく、尊敬に配慮した支援に努めています。「笑顔」「元気」を目標にお一人お一人に配慮した道具をそろえ、掃除や料理と一緒にしています。天気の良い日には美しい川岸の散歩が日課となっています。外出も度々あります。季節の行事も多く取り入れ、昔ながらの柏餅作りやしそジュース作り、お彼岸のおはぎ作り、餅つき等、利用者様に教わりながら、お一人お一人が活躍できる場面作りを努めています。また地域の行事にもたくさん参加させて頂き、その際には地域の方が利用者様にそっと手を差し伸べて下さったり、地域の小・中学生が来苑し、利用者様と触れ合ったり、自治会長の奥様からいちじくを頂いたりと年々地域との交流が深まっています。年3回の家族会もあり、その都度たくさんのご家族の参加を頂いています。花見や旅行など利用者様と楽しみながら、ご家族との交流を深め、協力を得ながら利用者様に安心して暮らして頂けるよう努めています。また今年からは誤嚥防止のマグカップも取り入

事業所独自の理念をつくり、管理者や職員は理念について理解を深めるための勉強会を開催され、ケアの4つの柱「横に座る」「その人を知る」「嘘をつかない」「ゆっくりと穏やかに」を常に確認して、理念に沿ったケアに取り組んでおられます。利用者は、地区の運動会や夏祭り、八幡宮祭、秋の文化祭、親睦会、どんど焼き、小学校の運動会等の多くの地域の行事に参加してられる他、小学生の訪問や中学生のブラスバンド演奏など交流を深めておられます。法人の人材育成のためのシステムが整備されており、外部研修は勤務経験や段階に応じて受講の機会が提供され、定期的な法人研修や内部研修、法人全体での研究発表会の実施など、職員の年間を通しての計画的な研修の機会を確保しておられる他、資格取得の支援や研修出席のポイント制導入など、職員が意欲的に学べるよう支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591600048		
法人名	医療法人 健仁会		
事業所名	グループホーム野の花(2階)		
所在地	山口県山陽小野田市大字郡字浜3233番7		
自己評価作成日	平成24年2月27日	評価結果市町受理日	平成24年8月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

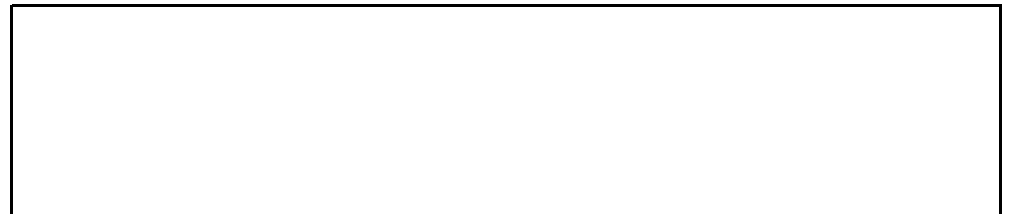
基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「皆に優しく、共に楽しく」を理念とし、「横に座る、その人を知る、うそをつかない、ゆっくりと穏やかに」のケアの4つの柱を基に、尊厳を大切にした支援を心掛けています。平成20年から行っている学習療法の成果として、ご家族に手紙を出され、受け取られたご家族が大変喜ばれたり、また職員も皆褒め上手になったりした事を、昨年開催された全国大会で発表しました。地域のさまざまな行事に参加した折、沢山の方が、優しく言葉をかけて下さるようになりました。毎月心肺蘇生の講習会を開き施設に設置されたAEDをいつでも誰もが使えるようにしています。法人内研修や、外部研修も多く、知識の習得・技術の向上に努めています。利用者様全員が毎月かかりつけ医の健康診断を受けられます。その診断票、個人出納簿、野の花メールと共に、メールに載らなかった方、掲載拒否の方のよく撮れた写真をコメントと一緒に送っています。薬剤管理指導、栄養管理指導、歯科検診も定期的に行い利用者様の健康管理に努めています。また法人の医師・看護師との24時間体制の連携を図り、今年度2名の看取りをしました。



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時また、ミーティングの初めには理念の唱和を行い、名札の裏や書類にはケアの4つの柱を印字し常に心にとめ理念の共有・実践に取り組んでいる。	理念を事業所内に掲示し、家族や地域向けの野の花メールや職員のケース記録などの書類にも掲載して周知を図っている。管理者や職員は、勉強会を開催し、ケアの4つの柱を常に確認して、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域行事には必ず声をかけて頂いている。管理者が自治会内に住んでおり普段からも地域の方々との交流ができています。本年度は小学校からの卒業式出席依頼もきています。近所の商店に買い物に行ったり、事業所で作ったお餅などを差し入れとしてご近所にお配りしている。月に1回地域のお寺からご住職が法話に来て下さっています。	自治会に加入し、管理者は、総会に出席する他、地域活動や行事に参加している。利用者は地域の運動会、夏祭り、秋の文化祭、親睦会、どんど焼き、小学校の運動会等の多くの行事に参加する他、保育園児とのふれあいや中学生のブラスバンド演奏、小学生の訪問など、交流を深めている。散歩時に地域の人と声をかけ合ったり、畑づくりの手伝いや季節の野菜や花の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3	1階	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて民生委員や自治会の方々から認知症についての質問もあり、認知症介護の実践経験や知識をお話しする場がある。地域の小・中学生の来苑があり、実際利用者様と触れ合って頂く事で認知症の理解を深めている。また毎月の野の花メールを自治会の回覧に回して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して自治会の方や民生委員の方に認知症高齢者の理解や、関わりについて質問、相談を受けている。毎月の野の花メールを各自治会の回覧に入れて頂いている。		
2階					

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価のコピーを全員に配布し全員で自己評価に取り組み、見直しを行っている。外部評価の結果は野の花メールでご家族にお知らせし、運営推進会議でもお知らせしている。前回の結果は会議で取り上げ改善案について話し合いの場を持っている。	管理者、職員は評価の意義を理解しており、全職員が自己評価表に記入し、ミーティングで話し合い、振り返りとし、一人ひとりの課題や目標を立て、具体的な改善に向けて取り組んでいる。特に、理念についての再確認、防災や口腔ケア、チェック表の見直し等に取り組んでいる。	
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	ミーティングで評価の意義を全員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。評価の結果について会議で取りあげ改善点について具体的な案を出し全員で取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、利用者様の状況や行事、研修、災害訓練、外部評価結果等を報告し、会議の参加者(ご家族、自治会長、民生委員、漁業組合代表、市担当者等)と意見交換をしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、野の花メールでの事業所の活動報告、外部評価への取り組み状況等について報告している。災害時の避難場所や経路、自主防災組織育成等、地域住民の協力体制について意見交換し、サービスの質の向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人代表・ケアマネ他多数参加している。市役所職員との情報交換も日頃からしており必要に応じて指示・指導を頂いている。また認定調査で地域包括支援センターの職員が訪問した際にも情報交換を行っている。	地域ケア会議の参加も含めて、市担当課の職員とは、日頃から相談や情報交換など連絡を密に取り合っている。地域包括支援センターの職員とは運営推進会議の他、困難事例の相談や学習療法等の情報交換を行うなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に法人代表、ケアマネ他多数参加している。認定調査を通し地域包括支援センターの職員が訪問される際、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約の際には重要事項説明書及び契約書で身体拘束の理念や方針をご家族に説明している。マニュアルがあり法人勉強会やグループホーム勉強会にて身体拘束の恐ろしさを学んでいる。中庭や他事業所への入り口の鍵はいつも開いており自由に行き来して頂いている。	マニュアルがあり、法人での勉強会や内部研修を実施し、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに努めている。日中、玄関は施錠せず、外出傾向のある利用者には一緒に外へ出るなど、思いや自由な行動を大切にされたケアで対応している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、勉強会などで職員全員が理解しどんな場合でも拘束はしないことに努めている。丁寧な言葉でも語尾が強くなると抑制的な言葉に聞こえてしまうので、接遇委員会でも基本の挨拶とともに語尾に気を付けることに取り組み指導を受けている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム勉強会にて法律を含めた勉強会を行っている。ケアにおいては身体的および精神的に虐待がないようお互いに注意し合っている。また、接遇研修も定期的に行われており言葉遣いや接する態度についても指導を受けている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人勉強会で学び、グループホーム勉強会でも勉強している。ケアにおいて身体的、精神的虐待がないか、お互いに注意し合い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人勉強会やグループホーム勉強会で学ぶ機会を設けている。現在成年後見制度を利用されている方はいらっしゃらないが、ご家族には必要に応じてこのような制度がある事をお伝えできるように資料がある。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人勉強会やグループホーム勉強会で学ぶ機会を設けている。必要時にご家族にもこのような制度があることをお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	1階	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては担当者が中心となり重要事項説明書及び契約書にて丁寧に説明しその都度質問を受けながら疑問点や不安等の相談を受け、理解納得を図り同意を頂いている。重要事項説明書の改定等は文書及び口頭にてしっかり説明し理解して頂いている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を担当者が詳しく説明し、その都度質問を受けながら理解、納得して頂き同意を得ている。入院等による解約の時にも利用者様、ご家族の要望に沿えるように援助している。改定時にはその都度ご家族に説明し同意を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書での相談・要望の受付体制や処理手続きなどを詳しく説明し納得頂いている。日々の会話や表情から利用者様の想いを汲み取ることができるよう意識している。また意見や希望は家族会、面会時等に和やかな雰囲気で見聞交換ができています。要望等がある時は会議等で話し合い、改善策を出し要望に答えられるようにしている。	相談苦情の受付体制や処理手順、第三者委員を明示して入居時に説明している。運営推進会議や家族会、面会時に直接聞いたり、年2回のアンケートで家族の意見や要望を聞いている。出た意見や要望にはすべて回答し、それらを家族、職員が共有して運営に反映させている。毎月発行している「野の花メール」に家族会からの率直な意見、それに対する回答を掲載し、意見や要望、不満を気軽に出来る雰囲気づくりをしている。	
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書で、相談、要望の受付体制や公的相談窓口、第三者相談窓口もお伝えしている。日々の会話の中で利用者様の想いや、不満を汲み取るようにしている。また年二回ご家族へのアンケートを実施し、結果は野の花メールでお知らせしている。ユニットに要望・相談への体制について掲示し見て頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングや合同ミーティング時にスタッフひとりひとりの意見を聴く機会を設けている。リーダーは職員からの意見や提案があった場合、管理者や代表に報告し、運営会議や法人グループホーム合同会議等で議題にあげ反映させている。グループホーム独自のケース記録用紙やアセスメント表の改善等をした。スタッフの意見から浴室の手すりの増設を行った。	ユニットミーティングや合同ミーティングの場で直接聞く機会を設けるとともに、職員が日頃から意見が言いやすい雰囲気づくりを心がけ、管理者やユニットリーダーは常に職員の意見や要望に耳を傾けている。職員から出た意見や提案は集約し共有して、法人の運営会議で提案するシステムをとっており、意見や提案を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回のユニット会議と月一回の合同ミーティングで、職員の意見や提案を聴く機会を設け、グループリーダー会議では代表をはじめ、他管理者から指示を頂きすぐに反映させるようにしている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	グループホームの人材として、人間として、家庭人として優れた人が望ましいと考え一人ひとりの能力を見極めて業務にあたっている。能力や資格に応じた手当もある。月リーダーや各役割分担をし、担当となることで自信や向上心に繋げている。ノー残業週間もある。疲労を残さずストレス軽減に取り組んでいる。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	勤務・公休希望についてはなるべく取り入れてシフトを組むように配慮している。能力や資格に応じた手当もある。各役割分担や月リーダー、担当になることで自信や向上心につなげている。定時で帰宅出来るよう声かけしている。花見や忘年会はストレス発散の場になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人や新任研修のマニュアルを作り指導している。月2回の法人勉強会に参加している。ポイント制があり出席者・講師にはポイントが付くようになっていく。法人は介護福祉士・介護支援相談員の資格取得の助成を行っている。またグループで必要な資格研修にも多くの者が参加できるように職員の育成に取り組んでいる。	外部研修は、勤務経験や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。定期的な法人研修や毎月の内部研修を実施し、法人全体で研究発表会を実施するなど、職員が意欲的に学べる機会を数多く確保している。資格取得の助成、研修出席のポイント制の導入など、職員を育てる取り組みをしている。	
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修をはじめ、新任研修、月二回の法人内の勉強会や全体研修、グループホーム内での勉強会を実施している。また外部研修の機会もあり、研修後の報告書をスタッフ全員で回覧し、知識技術の向上に取り組んでいる。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にグループホーム連絡会があり、勉強会、交流会に参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議の際、近隣のグループホーム管理者をお招きして、情報交換を行っている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に県宅老所、グループホーム協議会やグループホーム連絡会があり、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議の際、近隣のグループホームの管理者をお招きして情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談や見学の機会を設けている。ユニットでお茶を飲みながらお話をする機会も設け雰囲気慣れて頂けるように努めている。ご家族からも生活歴をお伺いし寄り添い表を作成し入居後の日々のお話のきっかけ作りにも努めている。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談や見学の機会を設けている。その際、お茶を飲んだり話をしたりして利用者様の思いを聴き、利用するに当たっての不安を解消するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	1階	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応している。見学もされており、管理者、リーダーは相談員と調整してご家族の想いを聴く機会を設け、その想いを受け止められるように連携している。また、担当スタッフをすぐに配置しお話等も聴けるようにしている。		
17	2階	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設サービスの問い合わせには法人相談員が丁寧に対応しており、管理者、リーダーは家族の思いを聞く機会を設け受け止められるよう連携している。担当職員もすぐに配置し、対応するようにしている。		
18	1階	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、法人相談員、ケアマネ、管理者が連携をとり生活の場としてグループホームの利用が良いのか老健や在宅での支援等、現在どういう状況でありどのような支援が必要なのか話し合っている。他のサービスの情報も提供している。		
18	2階	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族がまず何を必要とされているのか、ケアマネ、管理者、職員が連携を取り、生活の場としてグループホームがいいのか、現状どのような支援が必要か他のサービスの情報も提供している。		
19	1階	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意とされる事やお好きだったことをご本人やご家族からお伺いし、畑の手入れの仕方や昔の習わし等、利用者様が主役となられ日々教えて頂くことがある。身の回りの事は極力ご自分で頂き掃除道具もたくさん用意し毎朝の日課になっている。		
19	2階	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症になられても日々の関わりの中で「個性」「できること」「教わること」がたくさんあると知り、利用者様からしそジュース作りや料理の味付けなど教わりながら共に支え支えられる関係づくりが築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	1階	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	野の花メールや写真、記録物を見て頂き日々の様子を面会時にお話するようにしている。また電話等で報告しご家族の意見や気持ちを大切にしながら共に考えていくようにしている。認知症のお話をさせて頂きご家族の心の苦しみを少しでも緩和できるようにしている。定期的に外泊やご家族の付き添いで病院に通院もされている。		
20	2階	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを知り、利用者様の日々の暮らしの出来事や気付いたことを密に報告し、ご家族と共に利用者様を支えていけるよう信頼関係を築いていく。たわいのない会話も大事にし、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
21	(10) 1階	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方在住のご家族からお手紙が届いたり、時には電話でお話されたりもしている。また、馴染みのスーパーに買い物に出かけたり、法事に出席の為外泊され、近所の方と交流をもたれている。	入居時やケアプラン作成時に家族や本人から馴染みの人や場所を聞き取り「よりそい表」に記録し、職員間で共有している。家族の面会、利用者の知人や友人の来訪の受け入れ、馴染みの商店での買物や外食、定期的外泊、手紙や電話の支援等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21	(10) 2階	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの商店に買い物に行かれたり、近所と一緒にカラオケを楽しまれた友人達が面会に来られたりもしている。知人の方との年賀状もやりとりされ職員が代筆をしている。外出・外泊・面会はいつでもよいことをお伝えしており、月に一度定期的に外泊もされご家族とゆっくり過ごされる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	1階	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルの席の配置は利用者様同士の相性を考慮し随時席替えを検討している。仲の良い方同士で外出に出かけたりトラブルになる前にスタッフが間に入り嫌な想いをされないように支援している。また、介助のいる方や体調不良の方に対して優しい気遣いをされる利用者様もいっしょり利用者様同士で支え合う関係もできている。		
22	2階	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士でお話をされていたりお部屋を行き来しお互いを心配しあう場面も見られる。時には職員が間に入り関わりがとれる環境をさりげなく支援している。食事の席も相性を考え配置を考えている。2ユニット合同の行事もあり普段関わりが少ない利用者様同士がお話できる場面を作っている。		
23	1階	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人施設に移られた方へのもとへ面会に行ったり入院された方には寄せ書きを持ってお見舞いに行ったりしている。退去された方には思い出のアルバムを作成してお渡ししている。		
23	2階	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方にはお見舞いに行き、退去された方には思い出のアルバムを作り、お渡ししている。亡くなられた方には、担当職員とお線香をあげに伺い、思い出話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の表情や発言はケース記録に細かく残すようにして希望や意向の把握に努めている。また日々の行動や会話からサインの見逃さないようにしている。意思の伝達が困難な利用者様には担当職員が中心となり、気付きなどを他の職員に情報を伝え支援している。	「よりそい表」で、本人の趣味や嗜好、生活歴を詳細に把握している。日常の関わりの中で利用者の言葉や言葉にしづらい思いを表情や行動から汲み取り把握し、連絡ノートやケース記録に記録し、職員間で共有して介護計画に反映している。利用者にはできるだけ寄り添い、本人の思いを感じ取るよう心がけている。	
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人に話を聞き、ご家族には面会時やケアカンファレンス時に生活歴を詳しくお聞きしている。意思の伝達が困難な方には担当職員が中心となり小さなサインを見逃さないように情報の共有に努めている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や家族会等の機会を利用して今までの生活環境や生活歴をご家族から聞ける範囲でお伺いしている。聞きづらい事は十分配慮してお聞きしている。本人やご家族とのお話で今までの暮らし方や環境をお聴きし寄り添い表に追加している。画一的な支援にならないように今までの生活歴を把握したうえで個別の支援に努めている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	法人相談員からの情報とご本人、ご家族の面会時、家族会等で出来る限りたくさん話し、把握するように努めている。聞きづらい事は十分配慮してお聞きしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や連絡帳、生活の記録を活用し利用者様の生活ペースや心身の変化をスタッフ全員が共有できるようにしている。随時ミーティング等で気付きを話し合い、今必要な事が何なのかを話し合っている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、アセスメント表、連絡帳を活用しちょっとした変化も見逃さないように状態を把握し、担当の職員を中心に全職員で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフが中心となり利用者様やご家族に要望を聴きカンファレンスを開催している。ケアマネの指導により本人ご家族の想いを介護計画により良く活かせるように努めている。ご家族の意見も介護計画に反映させている。モニタリングもしっかり行い介護計画が想いに沿ったものであったかどうかを評価し次の計画に反映させている。	担当制とし、職員全員で3ヶ月に1回スタッフ会議を開催し、利用者一人ひとりのモニタリングを行っている。ケアカンファレンスは3ヶ月毎に行い、家族に参加してもらい、担当者を中心に家族の意見や利用者の要望、主治医からの意見、ケース記録を参考にして、介護計画を作成している。	
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一回モニタリングを行っており、ケアカンファレンスの際にはご本人、ご家族の参加を呼びかけ、要望を伺い、職員間でも意見交換を行い介護計画を立てて実行している。また状態の変化に応じてモニタリングをし、変更している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に介護記録、看護記録、ご家族欄と別れて記入できるようになっており日々の様子を細かく記入し、気づき等があれば連絡帳を活用し情報の共有に努めている。カンファレンス時にはもう一度記録を見直し統一したケアや想いに沿った介護計画を作成するよう努めている。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には発言や行動を詳しく記入しご本人とご家族の要望を色分けし一目で分かるようにしている。気づきや、より良いケアの工夫は連絡ノートに記入し、皆で情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方在住のご家族の要望で、かかりつけの眼科への受診付き添いや手紙のやり取りの支援、生け花をされていた方の他事業所開催のフラワーアレンジメントへの参加、敬老会への付き添い、思い出の場所へのドライブ、買い物や外食と個別の要望にも対応している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を利用してショートステイサービスを行っている。24時間医療連携もしている。思い出の場所へドライブしたり、釣り好きの方とヤマメ釣りに出かけるなど個別の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	1階	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館での催しに参加させて頂いている。運営推進会議には地元消防団、消防署、自治会からの参加があり災害時の協力要請をしている。地元ならではの災害時の避難方法や避難場所の意見交換も行っている。また、地域の休耕地を借りて利用者様と一緒に野菜を作ったり収穫を行っている。		
30	2階	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で災害時の地元消防団、消防署、自治会長等への協力の要請をしている。地元ならではの災害時の避難方法や場所の意見交換も行っている。また、地域の休耕地を借りて利用者様と一緒に野菜を作ったり収穫を行っている。		
31	1階	(13) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に法人のクリニックで定期健診を受けている。入居前からのかかりつけ医(眼科)に付き添いもしている。定期健診に行くことが困難な利用者様には在宅総合診療を行っている。	本人や家族が納得した上で、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の定期受診のほか、在宅総合診療による往診や緊急時等の受診の支援をしている。他科受診についても必要時には職員が同行し適切な医療が受けられるよう支援している。	
31	2階	(13) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の法人の定期健診を受け、結果については利用請求と一緒にお知らせしている。定期健診が困難な利用者様には在宅総合診療を行っている。他科受診ではご家族の協力もある。		
32	1階	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者は准看護師の資格を持っており看護の目線でも利用者様の状態を常に把握している。グループホーム職員に看護師がおり、常に健康管理や状態変化に対応している。また、クリニックからの訪問看護師にも情報を伝え医師への報告もしてもらっている。		
32	2階	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム職員に看護師がおり、利用者様の現状を細かく情報共有している。法人内の訪問看護も週に一度あり、利用者様の様子や健康状態を把握し医師との連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	1階	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様のサマリーを作成しスタッフからも病院等に様子を伝えている。相談員を通して主治医やご家族と相談して認知症が進行しないように早期退院に心がけている。場合によっては、法人の老健施設でリハビリを受けグループホームへ復帰することもできる。入院中はお見舞いに行っている。		
33	2階	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者様のサマリーを作成し職員も病院等に様子を伝えている。相談員を通して主治医やご家族と相談し、認知症が進行しないように早期退院に心掛けている。その間、希望があればお部屋をキープすることも出来る。		
34	(14) 1階	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針・対応マニュアルがある。契約の際、指針を交付し説明も行っている。状態の変化がある度に随時ご家族に意思の確認をして、ご家族、医師、看護師等を含めた話し合いの場を設け何度も意向の確認を行うようにしている。居室は常に整理整頓に努めお好きな音楽を流したり手を握って差し上げたりし不安の軽減に努めている。	利用開始時に「重度化及び看取りに関する指針」を本人及び家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から関係者と話し合い、方針を共有し、支援に取り組んでいる。職員研修を実施し、オンコール体制での取り組みがあり、これまでに3名の看取りを行っている。	
34	(14) 2階	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りに関する指針・対応マニュアルがあり、契約の際、説明も行っている。状態変化があった時はその都度ご家族、医師と連絡をとり、今後の方針について話し合っている。看取りの際は、職員全員で出来る限り、その方の不安を軽減できるよう話し合い、お好きな音楽をおかけしたり、花が絶えないようにして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成している。勉強会で事故防止と事故発生時の対応を勉強している。職員全員が救命講習を受けており、AEDの設置ステーションにもなっている。また、事故が発生した時はすぐに事故報告書を作成し再発防止の検討会を開催している。月1回看護師による心肺蘇生の実践的な訓練も行っている。	マニュアルがあり、事故発生時はすぐにヒヤリハット・事故報告書に記録し、ミーティングで話し合い、改善策を検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。全職員はAED使用方法や救急救命法の研修を受講している。看護師を中心に心肺蘇生方法や通報訓練をはじめ、日常起こりうる急変時への対応などの勉強会を実施し、実践力を身につけるよう取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルがあり勉強会で事故防止と発生時の対処について勉強している。他事業所での救命講習に職員全員で参加しシュミレーションを行い、またAEDの設置ステーションでもあり、心肺蘇生の勉強会も定期的に行っている。		
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策マニュアルがありグループホームの勉強会でも学んでいる。年2回火災・災害(地震)の避難訓練を行っている。避難訓練時には避難経路の確認や怪我等を想定した処置方法も指導を受けている。消火器は誰でも操作できるよう訓練している。地域への協力体制は運営推進会議の際、具体的な話し合いをしている。	地域の自主防災組織のメンバーであり、地域のAED設置ステーションの役割を担っている。年2回、夜間想定を含めた火災、高潮、地震等の避難訓練、消火訓練、通報訓練を利用者と一緒に行っている。地域との協力体制については、運営推進会議でも課題として取り上げ検討をしている。	・地域との協力体制の構築
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対策マニュアルがあり、勉強会で学んでいる。施設での消防避難訓練もあり利用者様と一緒に参加している。運営推進会議でも自治会、近隣施設、警察、消防の方々にも協力が得られるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員が接遇研修にて言葉遣い等の指導を受けている。また、名札の裏には理念と共にプライバシーの保護についてを入れており常に意識ができるように努めている。不適切な対応はスタッフ同士でも注意し合える関係作りをしている。記録物は代理人の方のみ公表している。	法人主催の接遇研修に参加し、人格の尊重とプライバシーの確保については十分理解している。日々の関わりの中では利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応に気をつけ、守秘義務についても厳守している。	
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員、接遇研修にて言葉遣い等の指導を受けている。また名札の裏には理念とともにプライバシーの保護について記してある紙を入れ、常に意識ができるように努めている。お互い注意し合う環境を作っている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食べ物は希望をお聴きしている。言葉の語尾は選択ができるような声かけを行って自己決定ができるようにしている。また、日頃のコミュニケーションの中から利用者様の希望や要望を引き出せるように具体的に分かりやすく声かけをするように努めている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に選択できる声かけを行い自己決定ができる場面を作っている。おやつ飲み物でも、様々な種類を用意しお好みのものをお出ししている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床就寝の時間はその方の生活習慣に合わせて支援している。入浴も遅くに入りたい方にはユニットで協力し合い可能な限り支援している。また、外出行事等でも希望をお聴きしその方に合わせ柔軟に対応している。お好きな新聞等も読めるように支援している		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寄り添い会話する中で、ご本人の意思を尊重し食事、入浴などその方のペースに合わせるようにしている。ちょっとした表情の変化も見逃さず声をおかけし、希望に沿えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	1階	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関しては介助が必要な方でも一緒に選び好きな服を着て頂くようにしている。外出や行事の時は希望をお聞きしお化粧品もして頂いている。また、下着が裾から出ていたり重ね着をされる方にはさりげない声かけ、整容を行い、身だしなみの支援をしている。月1回移動美容室が来るのでご自分の好きな髪型にされている		
40	2階	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容には特に気を付けている。服も季節にあったものを、その方を選んで頂いている。毎月移動美容室が来られ、希望をお聞きし、カラーやパーマをして頂いている。		
41	(18) 1階	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳は利用者様と一緒にしている。下膳もできる方にはご自分で頂きご自分のものは洗って頂いている。日々のお話の中で嗜好をお伺いし、好みのものをお出しできるようにしている。時には目の前でお好み焼きや餃子を焼いたり刺身の皿をお出ししたり目でも楽しんで頂いている。ビールがお好きな方には行事の時は乾杯をして頂いている。暖かい時期にはウッドデッキでランチバイキングやソーメン流しをしたりして楽しく食事ができるよう支援している。	昼食は法人からの配食で、朝食と夕食は利用者の希望を聞き、利用者が畑で作った野菜や、近所や家族からの差し入れの旬の食材を取り入れるなど工夫をして事業所で調理している。利用者は、調理や盛り付け、配膳、後片付け等、できることを職員と一緒にして、同じテーブルで会話を弾ませながら食事を楽しんでいる。行事食や食事をする場所を変えるなど工夫して、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41	(18) 2階	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・夕の食事は利用者様と一緒に準備・調理している。食べたい物を利用者様にお聞きしている。野菜の皮むきや味付け、味見、下膳、食器洗い、お盆拭き等その方に合った作業をして頂いている。パンのお好きな方には朝食にパンをお出ししている。バレンタインデーにはチョコレートフォンデュを楽しまれた。季節の行事や誕生日会には手作りのものをお出ししている。ミキサー食の方には食材ごとにミキサーをかけ、色どりに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	1階	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事、水分量をチェックし生活の記録に記入している。嚥下状態の悪い方には専用のマグカップ(無理に顎を上げたり、首を後に傾けなくても飲み物が飲める)を使用している。医師・管理栄養士にも指導・相談を受けている。体重測定を毎月行い、体調変化の目安になっている。		
42	2階	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日記録表で管理している。不足している方には好みのものをお出して摂取量が減少しないように努めている。嚥下状態の悪い方にはトロミをつけたり、お粥やミキサー食をお出しするなどして必要な栄養が確保できるように工夫している。医師や管理栄養士にも指導・相談を受けている。		
43	1階	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在全員が協力歯科医療機関による口腔ケアを月1～4回受けておられ口腔内清潔の指導や治療を受けておられる。口臭や汚れに関しては会話の時などにさりげなくチェックしその方に応じた支援を行っている。日曜日は義歯を洗浄液に漬けている。また、口腔ケアの勉強会にも参加し誤嚥性肺炎等の予防にも繋がることをスタッフ全員が学習し清潔保持の支援を行っている。		
43	2階	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に就寝前には口腔ケアの声かけ見守りを行い支援している。毎週日曜日はポリドントの日と決めており義歯洗浄に努めている。毎週木曜日に歯科医等による口腔ケア、義歯調整、指導、助言を頂きそれに基づいてケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の排泄パターンを把握しその方にあった対応をしている。プライバシーに十分配慮しその方に合わせたトイレ誘導や声かけを行っている。また、ご自分でパットの片づけができるようにトイレにゴミ箱を置いたり入浴時さりげなく下着を交換したりしている。便失禁に関しては医師、薬剤師と相談しながら緩下剤の量等も調整している。	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、プライバシーに配慮しながら声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時や、失敗が増えた方には排泄チェック表をつけ排泄パターンを把握し、ミーティング等で話し合いその方に合わせたトイレ誘導や声かけを行っている。その際、プライバシーに十分配慮した声かけを行う。医師、薬剤師と相談しながら緩下剤の量等も調整している。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘をしやすい方にはなるべく食物繊維の多い食べ物や乳製品またオリゴ糖等を摂って頂くようにしている。また、腹部マッサージや散歩やラジオ体操等の運動でも便秘予防に努めている。食事量やお腹の張り等も便秘の疑いの目安にしている。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いもの、乳製品、オリゴ糖等を取り入れたり10時の体操や散歩、家事等で適度に体を動かすことで便秘解消に努めている。水分もお茶等お代わりをすすめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間は決めずに毎日14時～21時の間で希望をお聴きしながら入浴をして頂いている。入浴を嫌われる方には香りの良い入浴剤や柚子湯にしてみたり入浴したくなるような環境を作り無理のないようにお誘いしている。湯温や、シャワー浴、足浴等希望をお聴きしている。体調不良の方は清拭をして対応している。	入浴時間は14時から21時の間とし、利用者の習慣や希望、状態にそって毎日でも入浴出来る。柚子や菖蒲、蓬を入れて季節感を味わったり、入浴剤を入れて温泉気分を味わう等、入浴を楽しむことが出来るよう工夫している。入浴をしたくない場合は、職員の交代や声かけの工夫をして、気持ちよくゆったりと入浴できるよう支援している。	
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は14時～21時までとし、希望の時間に入れるようにしている。1番風呂が好きな利用者様には1番に声かけする等、希望やタイミングに合わせている。菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を使用し好みの温度に調整し気持ちよく入浴して頂けるように工夫している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を持ちこまれたり空調管理や湿度調整を行い安心して快適に休まれるように支援している。こたつでくつろがれたり遅くまでテレビを見られる方や朝はゆっくりと起きて頂けるように無理のない声かけを行っている。また、居室はプライベートな空間でありご本人が休みたい時に自由に過ごしていただけるような生活支援をしている。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を使用して頂き、空調管理や湿度調整を行い安心して快適に休まれるように支援している。一人になりたい時は居室でゆっくり休んで頂けるよう支援し、言葉に出来ない方は選択できる声かけをし、意思を尊重し、居室でゆっくりお好きなラジオを聴いて頂いたりと対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	1階	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回薬剤管理指導で薬剤師より薬の副作用や効能について指導を受けている。利用者様の体調の変化は薬剤師にも相談し医師への報告もしてもらっており医療職との連携も図れている。また、与薬マニュアルを作成しており手順に沿ってお一人ずつお渡しし、確実に飲まれたか最後まで確認して与薬を行っている。		
48	2階	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回薬剤管理指導で薬剤師より薬の副作用や効能について指導を受けている。利用者様の体調の変化は薬剤師にも相談し医師への報告もしてもらっており医療職との連携も図れている。また、与薬マニュアルを作成しており手順に沿って与薬を行っている。		
49	(21) 1階	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を把握した上で、要望に沿いながら得意の踊りや歌を皆さまの前で披露して頂いたり、生け花をされていた方にはフラワーアレンジメントに参加して頂いたり、掃除の仕事をされていた方はユニットの掃除を毎日の日課とされていたり、視力が弱い方でもノートと筆ペンをお渡しすると達筆に書かれその意味もしっかりと教えて下さっている。常にスタッフは利用者様に教わったり共に楽しむことを大切にしている。	習字や絵画、日記をつける、踊りや歌、折り紙、季節のおやつ作り(いぎの葉団子、うめやしそのジュース、おはぎ、桜餅など)、フラワーアレンジメント、法話等で楽しみ、洗濯物をたたんだり、新聞たたみ、居室の掃除、食事づくり、さつまいもやスイカなどの季節の野菜づくり等、一人ひとりの活躍できる場面を多く創り、張り合いや喜び、楽しみのある日々が過ごせるよう支援している。	
49	(21) 2階	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴を把握した上でその方の楽しみを支援する。詩吟が得意な方にはラジオ体操後のレクの時間に皆様の前で披露して頂き、就寝前に毎日赤ワインをグラスに1杯だけ飲まれる方や、日記を毎日書かれる方等お一人お一人の楽しみを支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はスタッフと一緒にゴミ出しに行ったりそのまま散歩をしたりしている。担当と1対1でデパートに買い物に行ったり、外食やドライブ、四季の花を見学に行くなど頻繁に外出の支援をしている。突然買い物に行きたいといわれる方にも可能な限りその時に外出ができるように支援している。車いすの方もリフト車を使用し外出できている。ご家族と旅行やバス旅行に行かれる方もいらっしゃる。	利用者の希望にそって、近隣の散歩や商店での買物、季節の花見(桜、紫陽花、菖蒲、コスモス、もみじ等)、ドライブ(ぶどう狩り、やまめ釣り、東行庵等)に出かけている。初詣や地域のお祭り、外食ツアーなど、家族の協力を得て出かけられるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゴミ出しをスタッフと一緒にしたり、天気の良い日はそのまま散歩をしたりしている。日々の会話の中から利用者様の行きたい場所等をお伺いして、誕生日会などの機会を利用し個別に外出している。ご本人の希望でご家族と連絡を取り、自宅にスタッフが付き添い帰られる方もいる。地域で開催される行事にも定期的に参加している。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者様はご家族と相談し少額のお小遣いを持って頂いている。スタッフが管理している方でも買い物の際は好きなものを選んで頂き、会計時にご本人に現金をお渡ししご自分で会計ができるような支援を行っている。		
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に少額の現金を持たれている方もいらっしゃる買い物に行った際はご自分で支払いをして頂いている。スタッフが管理している方でも買い物の際は好きなものを選んで頂き、会計時にご本人に現金をお渡しし、ご自分で会計ができるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	1階	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族と文通をされている方もおられる。年賀状や暑中見舞いはご自分で書かれる方にはお声かけをし希望があれば書いて頂いている。返事をとってもらうように眺めておられる。自ら電話をされる方はいらっしゃらないが正面玄関には公衆電話があり希望があれば使用できるようになっている。また、ご家族からの電話をご本人とかわり遠方のご家族との繋がりも絶えないようにしている。		
52	2階	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関にいつでも使用できる公衆電話が設置してある。遠方のご家族やいこの方から手紙が届き担当スタッフと一緒に返信を書かれています。ご本人専用の携帯電話を持たれている方もおり、ご家族から電話があり楽しそうにお話されている。		
53	(23) 1階	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下にはソファが置いてあり仲の良い方と一緒にくつろがれている。共用空間には絵画をかける等してインテリアにも配慮し文化的な生活を送って頂けるようにしている。中庭にはデッキがあり他事業所の方との交流も図れるようになっている。玄関は上がり框が設けてあり一般家庭に近い環境になっている。また、室温や反射する光、風の音、テレビの音量等にも常に気を配り季節の花や野菜などを飾るなどして季節を感じて頂きながら快適に過ごして頂けるように努めている。	上がり框のある玄関口や飾り物を置いたサイドボードのあるリビングは明るく家庭的な雰囲気、中庭に面している大きなガラス窓からは、中庭の木々や草花を眺められ、季節を感じることができる。リビングの中央には利用者がいつでも調理に参加できるようにアイランドキッチンを備え付けている。居室に続く広い廊下には季節の生花や飾り物があり、壁面には落ち着いた色合いの額絵を飾り、落ち着いた安らぎのある空間となっている。トイレ、浴室は清潔、安全に整頓してあり、室温、湿度、音に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53	(23) 2階	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下にはソファが置いてあり仲の良い方と一緒にくつろがれている。共用空間には絵画をかける等してインテリアにも配慮し文化的な生活を送って頂けるようにしている。ベランダからは中庭が見え四季が感じられるようになっている。玄関は上がり框が設けてあり一般家庭に近い環境になっている。また、室温や反射する光、風の音、テレビの音量等にも常に気を配り、季節の花や野菜などを飾り四季を感じて頂きながら快適に過ごして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	1階	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファは一人で休んで頂いたり仲の良い利用者様との団らんの場となっている。リビングのテーブルも気の合う方が同じテーブルになるように席も考慮している。リビングのソファでゆっくりと新聞を読まれたり仲の良い利用者様同士でお話されたりして笑い声もよく聞かれる		
54	2階	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファは一人で休んで頂いたり仲の良い利用者様との団らんの場となっている。リビングにもソファがありテレビを見ながらくつろがれたり、いつものテーブルで普段あまり話をされない方でも様子を見て間に入り、ゆっくりお話できる機会を提供している。		
55	1階	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご家族にお願いしご自宅で使い慣れた馴染みの深いものを持ってきて頂いている。鏡台やご自分で作られたクッション、大好きなお花をたくさん置かれている方もいらっしゃる。またお若い頃の写真やご家族の写真を持ってこれ壁に貼られている方もいる。	利用者は、机や座椅子、テレビ、ぬいぐるみ、写真、衣類等使い慣れたものを持ち込み、生花や花鉢を置き、壁面には、家族写真や記念写真、本人の手芸作品を飾り、その人らしい、落ち着いたきのある、居心地よい居室となっている。	
55	2階	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご本人が使われていた大切な道具や家具も持ち込まれ個性あるお部屋作りを行っている。またダンス、椅子、写真、花等馴染みの物を飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関以外はバリアフリーとなっており廊下やトイレ浴室には握りやすい手すりがついている。居室は全室洗面台付きでご本人の能力に合わせてゆっくりと整容や口腔ケアができるようになっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 野の花

作成日: 平成 24年7 月 30日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	応急手当や事故発生時の対応について勉強会や法人内研修で学んでいるがすべての職員にまだ十分、身につけていない	職員一人ひとりが緊急時、事故発生時の対応や応急手当ができる。	法人で応急手当推進委員会が立ち上がり、各リーダーが技術を習得し、それを各職員に指導を行い、すべての職員が緊急時の対応(誤嚥・窒息・心肺蘇生等)についての技術を習得できるように繰り返し継続していく。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。